

キリスト教保育

年主題 ともに

巻頭言

善き人であれ—Be good!

佐藤司郎

論説

絵本の力、ことばの力

—子どもの心を育む大切なもの

吉井康文

礼拝のお話

清水真理



2026 FEB.

2

わたしたち強い者は、強くない者たちの弱さをになうべきであって、自分だけを喜ばせることをしてはならない。わたしたちひとりひとりとは、隣り人の徳を高めるために、その益を図って彼らを喜ばすべきである。キリストさえ、ご自身を喜ばせることはなさらなかった。

聖書 口語訳聖書 ローマ人への手紙15章1～3ヨハネによる福音書

神の恵みを信じる強い者は、神の無限の愛と無限のゆるしを信じているから、おどおどするところがない。彼を脅かすものは何もなく、恐れしめるなものもない。自由に考え、自在に生きることができる。解放された人間であり、喜びに押し出されて生きる人間なのである。そのような者であっても自分のことを強くして下さる方がだれであるかを忘れる時、またたとえ忘れてなくても、それを思うことが少なくなる時、その強さが本当の強さでなくなってしまうということが起きてくる。生来の人間の持つ強がり、わがままさ、思いやりのなさが、神を信じる強さと入れ替わる。今月の聖書の言葉は、そのような危険な中にある強い者たちへ、その生き方、あり方を警告したものである。

そもそも、強い者とはどのような人間のことなのか。ただ自分だけの満足を図る人間、ただ自分だけの喜びを追求する人間を、私たちは強い者とは言わない。他者の弱さを担う人間、他者の益を図っていとわない人間、そのような人間を強い者と呼ぶ。だが、生来の人間はそのような生き方をしない。人間は本来、自分のことしか考えることが出来ない存在なのである。どのように経験を積んでも、修養を重ねても、人間は結局、自分のことしか愛することが出来ず、自分ことしか考えることの出来ない者なのである。そのような自覚をもって生きることは苦しいに違いない。しかしもし、そのような自覚にも達しないで生きるならば、更に悲惨である。

私たちはそのような自分から抜け出さねばならない。だが、人間は自分の力で自分から抜け出すことは出来ない。神の力によって古い自分が打ち砕かれ、新しい人間につくりなおしていただくほかに道はない。キリストの十字架は私たちにそのことを示し、そのことを可能にしてくれたのである。神によってつくりにかえた人間、キリストの生命によって生かされている人間、それが真の「強き者」なのである。

キリストによって救われた者が、どうして自分だけを喜ばせるような生き方をしていいはずがあるうか。隣人の徳を高めるために、その益を図って彼らを喜ばす。そのような生き方を生きようではないか。

江口 武憲・執筆（当時・日本福音ルーテル小岩教会牧師）
1975年「キリスト教保育」誌2月号より

キリスト教保育

第683号2月号



年主題 ともに

幼子とともにキリストへ
目次

〈巻頭言〉 善き人であれ—Be good!

佐藤司郎

4

〈論説〉 絵本の力、ことばの力

—子どもの心を育む大切なもの

吉井康文

6

〈小論〉 地域と共にする子育て①

海野展由

14

子どもの祈り

図書紹介 櫻井 郁 高屋幹子

19

聖書にきく・お話 黒米理恵

20

【カリキュラム】

2月 月のねがい表

心にとめて 富田恵美子

実践報告 福野青葉幼稚園

実践からの学び 布村志保

絵本のとびら 川村実由紀

心にとめて 小出馨

実践報告 清瀬ひかり幼稚園

実践からの学び 木村 創

43 38 36 35 34 26 24 23



〈連載〉 私たちのキリスト教保育 高橋栄美子 44

〈連載〉 みんなで楽しむ楽器 山内信子 48

私たちの園では 松村幹子 52

目福口福耳福 宮崎奈津子 55

礼拝のお話 清水真理 57

風 相良郁子 編集子 東 義也 67

連盟だより 68

カット 中畝治子 金井ユリ 藤安初枝 小鯛みのり 松成真理子
菰田とみ子 表紙絵 田中横子